夢ひらく！ ふくしまストーリーズ
Fukushima Stories

夢に向かって挑戦する人。地域のために伝統をつなぐ人。
福島で頑張る人たちの物語をご紹介します。

「先端技術を活用し地域の農地を守りたい」

有限会社カネダイ
代表取締役社長　藤田（ふじた） 晴樹（はるき）さん
（会津坂下町）

12年前、肥料や農薬、米を商う家業を継ぐため、会津坂下町に帰郷した藤田晴樹さん。地元の米農家へ肥料などのアドバイスも行っていましたが、当時は追肥の必要がない一発肥料が主流で、生育状況を見ながら追肥を行う利点を訴えても、手間や人員不足を理由に採用されませんでした。「そんな時、ドローンによる農薬散布が成功したと聞き、『これだ！』と思いました」。

早速ドローンを操縦するための免許を自ら取得し、知人の農地にドローン追肥を行うと、そのメリットが広く認められ、1年目にして100ヘクタールもの依頼が入るようになります。さらに業績が伸び、自社にドローン事業部を立ち上げた頃、今度は高齢の農家さんから田んぼを引き継いでほしいとの相談が寄せられました。「せっかくならドローンをフル活用した稲作をやりたいと考え、田んぼにドローンで直接種をまく『直播（ちょくは）』に挑戦しました」。

ドローン直播は育苗や田植えの手間が省ける一方、倒伏しやすいというデメリットもあります。「当初は通常育成とほぼ同量を収穫することができましたが、耕地が増えて水の管理が行き届かなくなると倒伏も多くなり、今年から種まき機による直播に切り替えました。ドローンを活用した稲作は前例が少なく、手探りで進めていくしかありませんが、今後も多くの農地を受け入れていくため、より良い方法を探っていきたい」と前を向く藤田さん。会津の農地を守り、未来へ引き継ぐため、ドローンを使った新しい農業への試行錯誤は続いていきます。

所会津坂下町大字中泉字毘沙田45-1（本社）
☎0242(85)6366



10台ほどのドローンを自社で保有しています。



「食料自給率を上げるため、いずれは消費者を増やす取り組みにもチャレンジしたい」と話す藤田さん。



ドローン事業部では、操縦や農業への活用法を教える講習のほか、ドローンの整備や販売も手がけています。



現在では県内のみならず、新潟・栃木・茨城などを含めた1200ヘクタールの田んぼの農薬散布や施肥を請け負っています。

読者からのお便り　「ふくしまストーリーズ」を読んで、田人に行ってみたいと思いました。カフェメニューがおいしそうなので食べてみたいです。（60代・いわき市）